

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500146		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393-16		
自己評価作成日	平成 29 年9 月30日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年10月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①認知症の緩和・改善 ②身体機能の維持・回復 ③精神状態の改善・安らぎを目指し、口腔ケア・サプリメント補給・ロコモ予防体操を取り入れています。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に立地し、ホーム内も中庭も日当たりがよく、明るいグループホームである。法人全体の理念が、代表者、管理者を中心に職員全体にいきわたり、日々理念の実現に向けて取り組まれている。運営推進会議での地域からの情報をもとに、入居者の希望に添い地区のサロンや図書館へ出向く機会が増え、閉じこもりとならないよう、入居者の状態に応じた外出の機会も数多く設けられている。また、市の研修に参加し、研修内容をホームのレクリエーション活動に取り入れ、状態の維持のための運動等にも積極的に取り組まれると同時に、口腔ケアの大切さをホーム全体で共有し、健康維持のため、毎日の口腔ケアについても熱心に取り組まれている。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	A棟	B棟			A棟	B棟	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信念の詩を職員が常に目に着くところに掲げている。	信念の詩を職員が常に目に着くところ(玄関)に掲げている。	折に触れ振り返る機会を持つよう、法人の憲章(理念)を、玄関等に掲示されている。代表、管理者を中心に、日々のケアの中で気になる事があれば、随時助言を行い理念の実現に努められている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	黒川町民運動会、小学校相撲大会に参加(応援)したり、黒川小学校の運動会の案内を頂き見物に行った。市の図書館を利用したり、地区の将棋・囲碁サロンに参加した。	黒川町民運動会、小学校相撲大会に参加(応援)したり、黒川小学校の運動会の案内を頂き見物に行った。	地区の運動会や将棋・囲碁のサロンへの参加、図書館の利用、ホームへの保育園からの慰問等、地域と交流が図られている。ホーム前にバス停があり、小学生や住民との挨拶等は日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を抱える家族の会に参加し、グループホームを紹介したり、ケアの内容について説明を行った。	認知症を抱える家族の会に参加し、グループホームを紹介したり、ケアの内容について説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	実際のケアの取り組みを紹介し、ホームの理解をしていただけるよう努めた。今年度も2か月1回実施している。(4・6・8月実施)	実際のケアの取り組みを紹介し、ホームの理解をしていただけるよう努めた。今年度も2か月1回実施している。(4・6・8月実施)	毎回家族全員、地区関係者等へ案内をだし参加が呼びかけられている。報告書をまとめ、欠席者へも配布し、情報も共有されている。会議を通し、意見交換、情報提供が行われ、より地区との交流が推進されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊万里市主催のコミュニティケア会議に参加したり、運営推進会議に市の担当者に参加して頂き、ケアの取り組みを紹介した。	伊万里市主催のコミュニティケア会議に参加したり、運営推進会議に市の担当者に参加して頂き、ケアの取り組みを紹介した。	市の地域ケア会議等への参加、市からの運営推進会議への参加等は定例化されている。事務職が窓口となり、保険者・市関係者とも日々の業務において、必要時の連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、身体拘束対象となる事例はない。	身体拘束を行う場合は、職員間で協議を図りながら、家族に報告し了承を得ている。現在1名対応(抑制衣・四点ベット柵・入浴時のミトン使用(PEG抜去予防))	身体拘束とは何か、それがもたらす弊害等も研修の場を設け、職員全体で理解されている。家族の同意、定期的なカンファレンスを行う等、手順をふみ現在1名の入居者に対し、安全確保という事で拘束が行われている。	入居者の状態を把握し、安全に配慮しながら、常態化することなく、状況に応じ一部解除する等、拘束の解除に向け検討される事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなど配慮し、職員同志注意し合いながら虐待防止に努めている。	言葉遣いなど配慮しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要な方があれば活用できるよう、勉強会をしている。	マニュアルを読み合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月毎のケアプラン説明時に意見収集の用紙を送付し、意見を聞ける機会を作っている。ご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	3か月毎のケアプラン説明時に意見収集の用紙を送付し、意見を聞ける機会を作っている。ご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	ホーム便りの送付時、報告と共に意見を聞き取る用紙を同封したり、面会時や電話での連絡の際に、意見・要望を聞き取るよう努められている。出された意見は運営へ活かす様努力されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で出された意見は、会議や朝のミーティングで話し合い、ホーム長が会議等で社長に報告したり、また社長自ら食事会を催し、打ち解けた雰囲気の中で意見交換を行っている。	職員間で出された意見は、会議や朝のミーティングで話し合い、ホーム長が会議等で社長に報告したり、また社長自ら食事会を催し、打ち解けた雰囲気の中で意見交換を行っている。	合同ミーティング、ホーム会議、日々の申し送り時等、意見を出す場が設けられている。日々の業務の中でも個別に聞き取りが行われ、環境の整備に活かす等、意見の反映にも努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。研修旅行や食事会・温泉・マッサージなどの慰安にも努めている。	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。研修旅行や食事会・温泉・マッサージなどの慰安にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。	ケアマネージャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。	利用できるサービスは対応している。医療機関による通所リハビリへの送迎サービスを行い、他のサービス継続に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方がいてくださるからこそ私達存在できる事を心に留め、共に生活するもの同志の関係が築けるよう心掛けている	出来る方には、家事などの役割を担ってもらい、共に助け合い、協力して暮らしていける関係作りに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていけるよう健康状態等の変化については細めに連絡をしている。息子さんや娘さんと定期的に外出される方もある。	定期的に家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩やドライブまた季節を感じて頂くために花見などの支援を行っている。馴染みの床屋に定期的に行っている。	地域の散歩やドライブまた季節を感じて頂くために花見などの支援を行っている。	親類や元同僚、地域の役員の訪問等、これまでの関係が継続できるよう配慮されている。行きつけの床屋や美容院の継続、ドライブの際に馴染みの場所を巡る等の支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関わり合いが出来るよう支援している。一緒に将棋をしたり、車いす介助、居室を互いに訪室しておしゃべり等、互いが交流を深められていた。	入居者の方の自発的な他の入居者への援助を支援できるよう心がけている。(車椅子移動の声かけ、食事介助、入居者の方の訴えの代弁)		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時はお見舞いに行き、ご家族へは経過報告や洗濯の代行を行っている。	入院された時はお見舞いに行き、ご家族へは経過報告や洗濯の代行を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人が希望される暮らしができるよう、お一人お一人の思いを把握できるよう努めている	家族からの情報や本人との会話などの中から意向を確認し、希望に添えるよう努めている。	家族からの情報、本人との会話の中から、思いや意向の把握に努めている。状態に応じたコミュニケーションに努め、本人本位の支援が実現できるよう、職員全体で取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の心身状態を把握し、無理のない一日が過ごせるよう見守りを行っている。	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らして頂けるようにチームで話し合っている。また、ご本人や、ご家族の意見も伺っている。	3ヶ月に一度のケアプランのモニタリングを行い、ご家族に確認していただき、承諾を得ながら介護計画を作成している。また、ご本人やご家族の意見も伺っている。	定期での3か月ごとのモニタリングが実施され、本人・家族の意向の確認を行い、評価、担当者会議を経て、計画が作成されている。状態変化時の随時の見直しも実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を詳細に行い、情報を共有すると共に状態の変化に即した介護計画を作成している	随時、介護記録を行い情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や親戚訪問、馴染みの理髪店への送迎を行うなど出来るだけ個別ニーズに応じられるよう工夫している。	自宅や親戚訪問、馴染みの理髪店への送迎を行うなど出来るだけ個別ニーズに応じられるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源、公民館行事の把握に努め、図書館を活用したり、地区の将棋サロンに参加し、ホーム内に閉じこもらないような生活が出来るよう支援している。	地域資源、公民館行事の把握に努め、ホーム内に閉じこもらないような生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が希望される病院の受診ができるよう支援している。	本人や家族の希望を大切に、医療を受けられるように支援している。	協力医療機関との連携のもと、往診及び通院での受診が行われている。情報は、家族、職員全体で共有が図られ、専門医受診についても、ホームからの支援で適切な受診につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している	協力医療機関看護師への状態報告を行い、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にMSWとの連携も密に行っている	入退院時の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末に向けた方針を伝え、ホームで出来ることを確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。ご家族に終末ケアの確認書を提出して頂いている。	重度化や終末に向けた方針を伝え、ホームで出来ることを確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。ご家族に終末ケアの確認書を提出して頂いている。	入居時に、ホームでできること等の説明がなされ、重度化した場合や看取りについての意向の確認と同意がとられている。状態に応じ主治医を交えてカンファレンスが開かれ、希望すればホームでの看取りへの対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度の防災訓練時は酸素ボンベによる吸入手順を確認している。また、急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている	月に1度の防災訓練時は酸素ボンベによる吸入手順を確認している。また、急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時用の備蓄をしている。年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導も受けている。毎月1回はホーム内で防災訓練を実施している。	非常時用の備蓄をしている。年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導も受けている。毎月1回はホーム内での防災訓練を実施している。	火災の際の夜間想定での避難訓練は年2回実施され、避難場所も確認されている。他災害についてもマニュアルが作成され、食材も非常時に備え備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけている	お一人お一人を人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけている	一人ひとりの思いに寄り添い、言葉かけ等も人生の先輩として敬い、プライバシーや誇りを損なう事がないよう対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日したいこと、今したいことをお尋ねし出来る限り対応できるよう努めている。また、個人個人が持つ思いや、希望が表出できるようお声かけしている	今日したいこと、今したいことをお尋ねし出来る限り対応できるよう努めている。また、個人個人が持つ思いや、希望が表出できるようお声かけしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、お一人お一人に応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、お一人お一人に応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。また、理容師によるヘアカットを受けている。	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。また、理容師によるヘアカットを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方とつよに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、共に片付けを行っている。	職員も入居者の方とつよに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、共に片付けを行っている。	中庭での軽食、季節の花見等での行事食の他、外食の機会も多く、食事を楽しむ工夫がなされている。買い物や配膳、下膳等、入居者のできる事で活躍の場も設けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。栄養改善のための栄養ドリンク、サプリを飲用して頂いている。好き嫌いの激しい方には代替を提供。	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。また、栄養改善のための栄養ドリンク、サプリを飲用して頂いている。代替えなども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをしている。毎日ポリデント使用。	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをしている。毎日ポリデント使用。		



自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみながらトイレ誘導を行ない、自立できるよう支援している	排泄パターンをつかみながらトイレ誘導を行ない、自立できるよう支援している	排泄チェック表で、排泄のパターンを把握し、タイミングを見ながらトイレへの誘導が行われている。2階建てのため、モニター等も活用しながら、失敗やけがないよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、運動を行い便秘の予防に努めている。	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れ、必要に応じ薬を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	本人の希望や、本人の気分に配慮し、個々に添った入浴ができるよう支援している	本人の状況に合わせて、入浴・シャワー浴・清拭・ドライシャンプー・手浴足浴などを行い清潔保持をしている。	最低でも週に3日は入浴できるよう支援されている。拒否があっても誘い方を変える等、入浴が楽しみなものとなるよう配慮されている。朝食前、夕方からの入浴など、入居者の希望に応じた時間帯へも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促したり、冬の間は湯たんぽを入れ気持ちよく眠れるよう支援している。夏はエアコンで温度調節を図った。	体調を見ながら午睡を促したり、冬の間は湯たんぽを入れ気持ちよく眠れるよう支援している。夏はエアコンで温度調節を図った。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に勉強会を行ったり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している	処方箋を基に勉強会を行ったり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁や将棋・カラオケなどを楽しみにされている方もあり、支援している。買い物に同行し、荷物持ち等の役割を担って頂いている。	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を感じ張り合いを持って取り組まれている。会話や歌・編み物や畑づくり等を楽しまれ気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やホーム周辺の散歩やドライブを行っている。また、ご家族の協力があり、日中外食したり帰省される方もおられる。また、ホーム内での買い物役割を担って頂き、職員とともに外出の機会を持っている。	中庭やホーム周辺の散歩やドライブを行っている。また、ご家族の協力があり、日中外食したり帰省される方もおられる。また、ホーム内での買い物役割を担って頂き、職員とともに外出の機会を持っている。	買い物や散歩、ドライブ、地域のサロン活動への参加等、日常的に外出する機会を設けられている。中庭を利用した日光浴等も行われ、外出が難しい入居者も、戸外で過ごす時間を持つ事ができるよう工夫されている。	



自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や、本人の気分に配慮し、個々に添った入浴ができるよう支援している	各人の力や希望に応じて買い物が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了承を待たず、電話を希望される時にはすぐに対応している。また、自分で携帯電話をもたれ、自由に息子さんや娘さんに電話したり、息子さんから手紙が定期的に届き喜ばれている。	希望があるときは電話をかけて頂いている。また、家族からかかってきた時は電話の取次や手紙のやり取り等、必要な時に応じて仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度に配慮したり、換気にも心がけ空気清浄機も使用している。また、職員の声かけが混乱を招くことのないよう、正面から声のトーンに配慮した声かけをしている	随時、室温と湿度の管理を行い、季節の花や置物で季節感を取り入れるよう工夫している。空気清浄機を使用し、居心地よい環境整備が出来るよう工夫している。	居間や廊下、サンルームには椅子やソファが置かれ、思い思いの場所で居心地よく過ごせる様配慮されている。また、温度や湿度、照明等も管理され、季節の花や置物、絵画で入居者が季節を感じ取れる様工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限りご本人のなじみの物を持ってきていただくようお願いしている	持ち込みは自由で、本人の居心地のよい居室づくりに努めている。	鏡台や仏壇等、入居者の馴染みの物が持ち込まれたり、家族の写真や習字の作品を飾る等、一人ひとりの思いを大切にした居室作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している		